

「異なる教義を持つ宗教間のバランス」

筑波大学大学院 ビジネス科学研究科
経営システム科学専攻 修士1年 小林正人

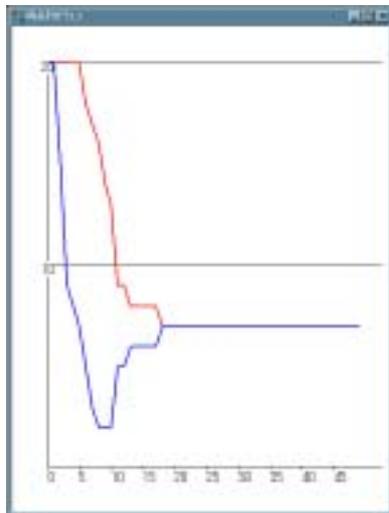
本報告は、Linux に代表されるオープンソースによるコミュニティのメンバーと、Microsoft のような商業ソフトウェアのユーザとが、社会のなかでどのような住み分けがなされるかについて MAS を用いてシミュレーションを行った結果である。

相対するソフトウェアユーザ同志がお互いのツールの優越性を主張しあう様を、しばしば「宗教戦争」という単語で表現するが、本報告のタイトルはそれを模して、オープンソースのコミュニティに属するメンバーと Microsoft 製品ユーザとをそれぞれ異なる教義を持つ宗教の信者にたとえたものである。

すなわち、オープンソース信者は自らの成果を広く世の中に与え、それに共感する者が新たな信者として加わるのを待つという、いわば寛容な教義を持っているのに対して、Microsoft 信者は勢力拡大のために、徒党を組んで異教徒を排除するという非常に厳しい排他的教義を持っているものとしてモデル化を行っている。

有限の大きさを持つ場において、このような集団同志が自らの属する宗教の教義にしたがって行動する場合、常にどちらか一方の信者が居なくなるまで争いが続くのか、あるいはそこに住み分けのバランスが生まれ双方の信者が共存するのか、もしも共存するとしたらその条件はどのようなものなのか。これらの問題を調べる目的で実験を行った。

結論としては、2 つのグループが共存するような条件は存在する。しかし、現代の社会に当てはめて考えると、その条件はかなり難しいものになる。



2 種類のエージェントが共存している例